

「東郷中学校の中期交流学习(藤川天神・臥竜梅)の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷中学校

2 学年・人数

東郷小学校 5・6年生 101人

東郷中学校 1年生 48人

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

平成30年6月～11月 ふるさと・コミュニケーション科の学習
(藤川地区コミュニティセンター)

(2) 発表の日時・場所

平成30年11月22日(木) 中期交流学习発表会(東郷中学校)

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

藤川天神(ふじかわてんじん): 正保4(1647)年に再興

臥竜梅(がりゅうばい): 樹齢千年を超える

(2) 特徴

藤川天神の祭神は学問の神様として親しまれる菅原道真公で「菅原神社」とも呼ばれてる。道真公が太宰府に左遷され、さらに逃れて藤川北野の地に隠退、没したと言い伝えられ、毎年、大晦日から三が日は大勢の初詣客で賑わい、また受験シーズンには合格を祈願する受験生や家族などで賑わいを見せる。

境内の梅園には、約150本の梅の木があり、このうち50株の梅はその幹を地上に伏せ、その姿がまるで竜のように見えることから「臥竜梅(がりゅうばい)」と呼ばれている。

5 保存会や地域との連携の具体

ふるさと・コミュニケーション科の学習で、毎年藤川天神を調べる学習を行っている。菅原神社の宮司に協力を依頼し、藤川天神の歴史や臥竜梅について講話をしていただいている。歴史に興味をもっている児童生徒が多く、菅原道真とのつながりや神社を再興した島津家についても詳しく調べる様子が見られる。

また、昭和16年に国の天然記念物に指定された臥竜梅は、薩摩川内市や藤川地区の住民によって保存整備が行われ、毎年2月中旬から3月上旬に薄いピンク色の花を咲かせ多くの観梅客で賑わいを見せる。平成28年度末に閉校した藤川小学校区の児童は、梅の時期に合わせて児童一人一人が梅の句を作り、満開の梅の花を前に自作の句を詠む「観梅会」を行ってきた。

6 活用の取組の工夫した点

本校の児童生徒が行う観梅会にあわせて、テレビや新聞等多くの報道関係者が訪れ、梅の名所である藤川天神を県下にPRする。また、児童生徒の作った句は、境内の茶屋に掲示され、観光客からも好評である。

ふるさと・コミュニケーション科の学習では、本校区の児童生徒が訪れて調べ学習を行う。ふるさと東郷には、多くの歴史や文化があり、現在までそのよさやすばらしさを継承している。児童生徒も、学習していく中でふるさとのよさに気づき、ふるさとに誇りをもつようになる。

7 取組の様子（研究発表等）



8 参加児童生徒・保護者・教職員等の感想・意見

【児童生徒】

- ・ 歴史にとっても興味があったので、菅原道真と藤川天神のつながりについて説明してもらってとても勉強になりました。数多くの史跡が東郷町にあり、もっと詳しくなって、外国の人にも紹介できるようになりたいと思いました。
- ・ 藤川天神を調べてみて、近くに住んでいるけど初めて知ることがたくさんあったので驚きました。こんなに有名な神社があることがとてもうれしいです。全国の神社についても、もっと調べてみたいと思いました。

【教職員】

- ・ 東郷には、他に誇れる歴史や文化が息づいている。児童生徒がその歴史や文化にふれることで、ふるさとを大切に思ったり、誇りに思ったりできると思う。このような学習から子供たちが進んで調べていける意欲も出てくると思う。

【保護者】

- ・ 自分が子供の頃に身近にあっても詳しく調べることはなかった。子供たちが学んだことを聞くことで、改めて自分たちの住んでいる東郷を見直すきっかけになりました。子供たちにふるさとを大切に思う気持ちをもっと育てていきたいと感じました。